

ラナンキュラス新色3系統 「ゆずてまり」、「れもんてまり」、「藤てまり」の品種登録出願

1. 背景・ねらい

さぬき市と三豊市を中心に栽培されているラナンキュラスは、球根を用いた栄養繁殖で増殖するため、ウイルスが蔓延して切り花の品質が著しく低下する事態になっていましたが、農業試験場が開発した無病苗育成・増殖技術により高品質化が図られ、市場での高い評価が得られるようになりました。これに伴い、新規参入者や経営規模拡大等による栽培面積の増加など、産地の活性化がみられています。一方で、産地間競争の激化に対応するため、県オリジナル品種による産地ブランドの形成に対する要望も強くなってきています。

農業試験場においては、独自性と多収性を兼ね備えた品種の育成を目標に、平成10年から交配育種を開始しました。その結果、平成20年に濃ピンクの「紅てまり」、平成21年に白色で極多収性の「雪てまり」を品種登録し、平成23年には白地にピンク覆輪の「小春てまり」を品種登録出願しました。これらの品種は「てまりシリーズ」として県内で栽培されています。

「てまりシリーズ」の市場での認知度は徐々に高まっていますが、より競争力のあるものにするためには花色のバリエーションを増やす必要があります。そこで、昨年度出願した濃い黄色の「ゆずてまり」、レモンイエローで芳香性を持つ「れもんてまり」に次いで、今回、紫色の「藤てまり」を新たに品種登録出願しました。

2. 成果の概要と特徴

「ゆずてまり」・「れもんてまり」（平成23年度育成）

- ・平成24年6月に品種登録の出願を行いました。
- ・花は黄色系の中大輪です（写真1、2）。
- ・花茎が長くて太く、高品質な切り花が安定して出荷できます。
- ・秀品率が高く、単位面積当たりの収益増加が見込めます。

「藤てまり」（平成24年度育成）

- ・平成19年4月に既存の「ピクトリアパープル」選抜系統に「雪てまり」を交配して得られた実生集団から選抜された個体で、平成25年2月に品種登録の出願を行いました。
- ・花色は今までのてまりシリーズにない紫色で、これは市場からの要望が強かった色です。1枚の花弁内で濃淡があり、花弁外面は濃いめの紫ピンク、花弁内面は白に近い極薄い紫となっています。（写真3、4）
- ・株当たりの採花本数は「雪てまり」より多く、「雪てまり」に見られる気温の上昇に伴う花弁数減少による品質低下も起こりにくいため、秀品率も高くなっています（表1）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 市場からの要望の高かった紫色の新品種が追加されたことで、「てまりシリーズ」のカラーバリエーション充実により、市場評価の向上が期待できます。

- 2) 3品種とも秀品率等が高く、単位面積あたりの収益増加が見込めます。
- 3) 「ゆずてまり」と「れもんてまり」は平成25年夏、「藤てまり」は26年夏からウイルスフリー球根の供給を開始する予定です。

4. 主要なデータ等



写真1 「ゆずてまり」の開花状況



写真2 「れもんてまり」の開花状況



写真3 「藤てまり」の開花状況

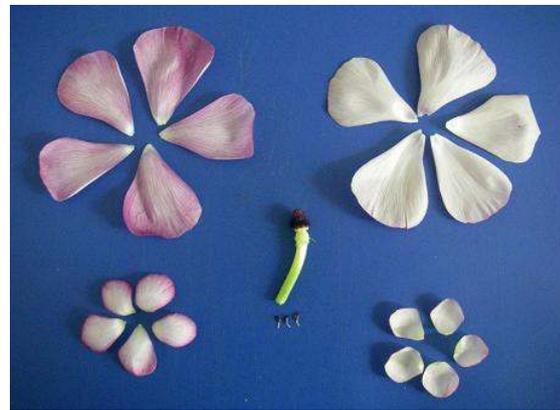


写真4 「藤てまり」の花弁および柱頭の様子
[花弁]左：外面、右：内面 上段：最外周、下段：中心部付近

表1 「藤てまり」の特性比較

主な特性	品種名	
	「藤てまり」	「雪てまり」
花色	薄い紫	白
採花開始日	12/26	12/26
採花本数(本/株)	25.5	18.3
平均花茎長(cm)	47.9	48.0
平均花茎径(mm)	3.5	3.6
秀品率(%) ^(注)	71.9	54.0

(注)：秀品率(%) = (花茎40cm以上で奇形のない採花本数 / 全採花本数) × 100

表2 香川県育成品種一覧(参考資料)

品種名	色	特徴
「紅てまり」 20年品種登録	濃いピンク色	新奇性があるローズピンク、採花本数多い
「雪てまり」 21年品種登録	白色	採花本数極めて多い
「小春てまり」 23年登録出願	白地にピンク覆輪	茎の空洞化率が低く、硬い
「ゆずてまり」 24年登録出願	濃い黄色	てまりシリーズにない覆輪、採花本数極めて多い
「れもんてまり」 24年登録出願	レモンイエロー	花茎長が長く、秀品率高い
「藤てまり」 25年登録出願	紫色	採花日が高い
		芳香性があり、採花本数が多い、秀品率も高い
		市場の要望の高い紫色
		採花本数多く、秀品率高い

5. 試験期間 平成20～24年度